

中学校の部 銀賞

## 思いやりのブレーキ、冷たさのアクセル

小名浜第一中学校 3年 渡辺 いちえ

「止まってくれないかなー。」

夏休み中の出来事だった。私と友達は遊びに行く途中、たまに通る信号のない横断歩道を通ろうとしていた。私自身、信号もない場所で車は止まってくれると思っていた矢先、この日はなかなか車が止まってくれなかった。私はその時、一つの考えが頭をよぎった。

「もし、小さい子が渡り出していたら」

「おばあちゃん、おじいちゃんが車に気がつかず渡ってしまったら」

考えるだけでとても怖かった。

そんな止まってくれるのを待っているとき、ある一人の女性に声をかけられた。

「歩行者優先のはずなのにね。」と。

今の日本では、横断歩道における歩行者の保護は、道路交通法で厳格に定められている。歩行者保護には主に、スピード減速や横断歩道での一時停止などがある。万が一これを破ってしまうと、三ヵ月以下の懲役または五万円以下の罰金があるということが調べて分かった。

そんな知識を得た中で、毎日のようにやっている交通事故のニュースに目をとめてみた。ある小学生の下校中、横断歩道を渡っている際に、車が突っこんだという内容だった。事故にあったのは、私よりも年齢が小さい小学一年生の女の子だ。その子は意識不明の重体で、救急搬送された。その時、あの帰り道声をかけてきた女性を思い出した。もし、あの時、周りを見ていなく、車と接触していたら。考えるだけでとても怖かった。私が住んでいる町、福島県の八月までの人対車両の事故発生状況のグラフの割合では、横断歩道横断中の事故が約四割、その他横断中の事故が全体の約三割をしめていることが分かった。このグラフからやはり横断歩道上での事故が最も多いのが一目見ただけで分かる。事故に遭っている人を年齢別で見ると、高齢被害者が全体の二割をしめている。私は今までニュースを当たり前のように聞き流していたが、調べていくうちに、他人事ではないと実感した。私にはまだ体験したことない、分からない車の運転時のアクセルかブレーキかの二つの選択肢。もしここで、急いでいることを理由に、歩行者が待っているのにもかかわらず、ブレーキを踏んでしまえば何が起こるか分からない。ほんの数秒を惜しんで、小さな命、一つの命、大切な命を危険にさらすのか。本当に小さな選択が、思いやりを教えてくれていると思った瞬間だった。

私は、後残り四年で運転免許証をとり、うまくいけば車を運転できる年齢になる。そんな中で、この調べた知識を忘れないようにしたい。「自分の意志」のみで、大きな事故に踏み出そうとしていないか、思いやりとはなにかなど考えるきっかけとなった。車のブレーキ一つで止まることが横断歩道を渡る人にとってどれだけ思いやりが伝わるか。それと反対にどれだけ気持ちを踏みにじり、裏切る行動となるのか、「止まる」という一つの選択、行動が「守る」という大きな命に変化するかが分かった。もう一度行動を見直して思いやりの気持ちを持ち一人でも多くの命を救いませんか。

## ヘルメットの重要性

玉川中学校 3年 馬目 魁斗

なぜ自転車に乗る時は、ヘルメットをかぶらないといけないのだろう。何度かそう思ったことがあります。ヘルメットは自分の命を守るためにかぶるもの。それは今まで何度も教わってきたことです。それなのに繰り返し呼びかけられるのは、まだヘルメットをかぶらないで自転車に乗っている人が多いからだと思います。ヘルメットがなぜ必要なのか一人一人がもっときちんと考えるべきだと思います。

僕が思う理由の一つは、ヘルメットをかぶると安全意識が生まれることだと思います。ヘルメットをかぶると、「今から自分は自転車に乗る。もしも歩行者とぶつかり事故を起こしたら自分が加害者になる。気をつけよう。」という意識が生まれるでしょう。普段身につけていないものを身につけることで、人間は「いつもと違う」という違和感、緊張感が生じ、集中力が上がります。また、ヘルメットをかぶっていない大人もたくさんいますが子どもがかぶっているのを見ると（自分もヘルメットをかぶり、安全運転をしよう。）と思うくれるはずです。ヘルメットをかぶることで自分の安全意識が高まるとともに周りの人たちの安全意識も高まって、交通事故が減ると思います。

そして僕が思う二つ目の理由は、やはり自分の命を守るためです。結局これに尽きると思います。以前、僕が友達と遊んだ帰り道に車と自転車の事故現場を見たことがあります。自転車はバラバラになり、車のフロント部分も傷がついていました。後日、その事故のニュースをやっていました。警察によると車の運転手は飲酒運転をしていましたが、自転車に乗っていた人はヘルメットをかぶっていたので幸い命は助かったそうです。この時僕は思いました。「もしこの人がヘルメットをかぶっていなかったらどうなっていただろう。」おそらくこの人は亡くなっていたと思います。この事から、やはりヘルメットは命綱なのだと思います。頭を守ってくれたことで、衝撃を和らげ、事故にあっても命を落とさずに済んだという話はよく聞きます。頭を強打すると、命に関わる深刻な事態につながる可能性があります。脳挫傷やくも膜下出血、頭蓋骨骨折。これらの怪我は、もし命が助かって後遺症が残ることが少なくありません。ヘルメットをかぶるのが面倒くさいと思っている人が大半だと思います。ですがそのたったひと手間が命が助かるのなら、何も苦ではないのではないのでしょうか。

このように考えると、しなければならぬと言われていることにはやはりちゃんとした理由があるのです。先生や警察、親などは、僕たちのためを思って言ってくれているのであらためてルールをしっかり守ろうと思いました。そして、「自分は大丈夫」という根拠のない自信は、大きな事故につながる可能性があります。事故というものは、予測不可能な瞬間に起こるものです。だからこそ、ヘルメットは安全意識を高めるためのものであり何より命を守るためのもの、常に最悪の事態を想定し、備えておく。ヘルメットは、そのための最もシンプルで、最も効果的な方法だという自分なりの答えをもとに、これからも一つ一つのルールの意味を考えて行動していきたいと思っています。そして、交通安全を心掛け、自分もみんなも幸せになれるような社会をつくっていききたいです。

## 私の経験から

小名浜第一中学校 1年 渡辺 美穂

交通安全作文コンクールの内容を見たときに、自分の経験から書くことができました。

まず一つ目は、押しボタン式横断歩道で起こったことです。一つ下の学年の子二人が、ボタンを押して信号が変わっていないのに、信号を見ずに真っ直ぐ渡って行きました。二人は、話をしたまま信号に気付かず行ってしまいました。その時私は、勇気が出ず声を掛けることができませんでした。友達と運が良すぎだったなと笑ってしまいました。でももしも、車が来ていたなら、事故に遭っていたかもしれないと思い、声を掛けなかったことを後悔していたと思います。声を掛けるより先に、とっさに車とその子たちの前に出て、守ってあげたいと思いました。そのことを家族に話をしたら、お母さんが、

「助けるのは、素敵なことだけど、自分の命も大事だから、やめてほしいかも。」

と言われました。だから、もし赤信号で渡りそうな人がいたら、渡る前に、

「まだ赤だよ。」

と声を掛ける勇気を持ちたいです。私は、自分の命を守るために、友達と喋っていても必ず信号を見て渡るようにします。

二つ目は、コンビニで友達と待ち合わせをしていた時のことです。死角のある交差点で友達は自転車に乗り真っ直ぐ向かってくる自動車が左側から来ており、どちらもスピードが出ていることが分かりました。私はとっさに「危ない」と大声を上げ、手に汗握りました。友達が急ブレーキで止まり、ぶつからずに済みました。もし、止まることができていなかったらと思うと、前回より心臓が早くなりました。私の声に気付いてくれて良かったし、私も声を出すことができて良かったです。友達と合流してすぐに、

「危なかったね、大丈夫？」

「危機一髪。」

と話をしました。私もよく通る道なので十分に注意したいです。

三つ目は、運転手の優しさについてです。押しボタン式横断歩道でバスが通ってからボタンを押そうと待っていたところでした。バスの運転手さんがまだ自動車側は、青なのに止まってくれて、押して良いよと、合図をしてくれました。そのおかげで早く渡ることができました。別の日に、横断歩道の無い道路を渡ろうとした時、車がスピードを落として止まってくれました。優しい運転手さんがいて安全に渡れると思いました。

私の経験から、防げる事故があると思います。道路を横断する際、一番良いのは、信号がある横断歩道を利用すること。ただし、絶対に信号を見て青でも車が来ないかを確認すること。又、信号の無い横断歩道や、横断歩道の無い道路を渡る場合も車が来ているかを確認することが大切だと思います。

運転手さんが必ず止まってくれるか分からないが、止まってくれたら一礼することで、感謝の気持ちを伝えるようにします。そしたら、優しい運転手さんが増えて、それにより事故が減ると考えます。

次に自転車利用の際、スピードに気を付けることです。死角になる場所での一時停止をすることが大切だと感じました。自転車の乗り方のルールを再度確認するのに、交通安全教室も大切な行事だなと思いました。両親は私の自転車に、ライトと反射板を付けてくれて十分に注意するようにと話をしてくれました。

高齢運転手の事故や、ひき逃げのニュースを良く聞くので、中学生の私にできることをして事故を防いで、自分の命、周りの方々の命を守ることができる行動をとるようにしたいです。

## 私の将来、自転車の未来

玉川中学校 2年 加瀬 優生

この前ニュース番組を視聴していたとき、来年の四月から自転車でも切符が切られるという話を聞きました。

でも、初めみた時は十六歳以上が対象と言っていた為、気にも留めませんでした。しかし、十六歳以上とは、自分が高校入学と同時期であったため少しは考えることにしました。その時までには、軽く調べる程度にしましたが、今からでも気をつけた方が今後の為だと思い結構調べることにしました。インターネットで調べたこともあり、情報が曖昧だったのも多少はありました。その為、本でも少し調べようと思いましたが、近場に図書館などが無かった為ニュースを見て調べる事にしました。その結果八割くらい聞いても謎でしたが、二割くらいは、ギリギリ理解できました。その為親に頼み新聞などをもらい、ようやく理解ができました。まず、「ながら運転」や、「逆走や歩道通行」などと、百十種類ともっとあることが分かりました。それにより罰金が課せられるそうですが、これを聞いてメリットとデメリットについても思いました。自転車とはいえ、軽車両に値するため、軽車両運転としての自覚を持ち運転することが大事だと思いました。それに、罰金という形で運転者へ危機感を抱かせることにより、今までよりも歩行者事故が大幅に減ると思いました。それに、マナーやより高い安全性を確保できるのも、メリットの一つだと思いました。また、事故に伴い警察への負担を減らしたり、医療や、車両修理の経済的な負担まで解消できて良いと思いました。どこの地域で違反が多かったかなど、自転車なら捕まらないと思っている人達への注意を含め、メリットだと私は思いました。

しかしデメリットの方が大きいと記事などを見て思いました。一番目にしたのは、場所によっては自転車道路が未整備の所についてです。これには、私からも実感したことが度々ありました。例えば高校の下り坂の道など、私の住んでいる市でも数える程しか、整備がされていませんでした。それにより、高校生や大学生が自転車の使用を控えることが多くなるかもしれません。また、罰金により親御さんとのトラブルや、自転車の使用者が減ったりするかもしれません。そして、このデメリットは若者だけにとどまらず高齢者にも大きく影響が出ます。都会の方は大丈夫かもしれませんが、問題は田舎の高齢者の方々です。この制度がいつ普及されるか分からなかった人々がいるかもしれません。ですがそれを対策し田舎の方を緩くすると都会の方から不満の声が飛ぶかもしれません。しかも、日本人だけではなく、外国の方にも影響が出ます。一見不思議に思いますが、何も知らない観光で来ている人などが、自転車レンタルで貸りた際何も知らず、切符が切られたりという光景を見るかも知れません。これが新法律についてのメリット、デメリットです。

そして、ここまでの事を踏まえて今後どうするかについてです。私は最初、自転車で高校に登校しようかなと考えていましたが、いざ調べて見ると意外に自転車登校は危ないなと思いました。ですが、挙げた物は全て、「違反」した場合であるため、普通に運転をしていれば罰金は課せられない点は、良いと思います。ですが自分の住んでいる町は、坂道を避けての通学が不可能であり、自転車用道路がある高校は、一校しかなく、それも途中からというものなので、それがデメリットでしょう。それに、自分は数ヶ月自転車の運転をしていないことから、自転車より安全なバスや、送迎が良いと思ってしまいます。でも、バスでは毎度料金が取られたり、送迎での労力を考えるとやっぱり安全運転の自転車が良いと思ってしまいます。それにバスの月々のパスなどを考えると、罰金はとても怖いですがやっぱり自転車の方が良いなと思ってしまいます。ですが雨などの場合を考えると、傘持ち運転禁止の自転車はどうしようかと考えたりもしました。一番思ったことは法律が確定し、自分が高校生になったタイミングでまた考えたいです。

最後に、自分が高校生になった時には、雨の日などはバスでの通学、晴れている日などは安全運転で登校したいと思います。これが私なりに思う自転車を安全に使っていく私の未来だと思います。

## 飲酒運転について私が思うこと

玉川中学校 3年 柳内 あみ

「飲酒運転根絶強化日。」二〇二五年一月二十二日早朝、福島県郡山市で大学受験に来ていた予備校生が軽乗用車にはねられ死亡したというニュースを耳にした。詳しく見てみると軽乗用車を運転していた男性は飲酒運転をしていたらしい。福島県警はこの事故を受けて毎月二十二日を「飲酒運転根絶強化日」とする取り組みを始めたそうだ。

私はこのニュースを見て事故を起こした男性の身勝手な行動で一つの命が奪われたことにとても悲しくなった。そして車を運転する全ての人が自動車事故への意識を変える必要があるのではないかと思った。車は現在の私たちの生活にかかせない道具ではあるが、使い方を間違えると人の命を奪う大変な凶器となってしまう。

その一つが最近テレビやネットニュースで頻繁に取り上げられている飲酒運転だ。ニュースで流れるたびに「またか…」と思う嫌な気持ちになる。どうしてお酒を飲んだ後に車を運転しようとするのか私には分からないが一つはお酒を提供する場所へ自家用車で行ってしまう事だと思う。ただ、自家用車で行ってしまっても「代行」と言って代わりに車を運転して自宅まで送ってくれるサービスもある事も知った。しかし代行が混雑していると待ちきれず運転して帰ろうとしてしまったり、代行料金を払えず仕方なく運転してしまう場合もあるのかも知れない。その他にも、ついつい飲みすぎて予定より帰るべき時間が遅くなってしまい急いで帰ろうとする場合も運転という手段を取ってしまう原因になる。

そこで私はお酒を飲んで運転するとどうなるのか調べてみた。動体視力が落ち視野が狭まったり、判断力の低下、状況の変化に対応できなくなるなどの症状があるようだ。そんな状態で車を運転している人がいるかもしれないと思ったらとても怖くなった。お酒を飲むことは決して悪いことではない。しかしお酒を飲んだ後の自分の行動に責任を持たなければ他の人の未来だけでなく自分の未来をも奪うことになってしまう。一時判断と身勝手に被害者とその家族の人生を奪ってしまう。どれだけ悔しかったことか、加害者が憎いか、考えるとやりきれなくなる。「飲んだら乗らない」のは鉄則ではあるが、その他にどうしたら飲酒運転を減らせるか考えてみた。

例えばお酒を飲んだ人が運転席へ座り、ハンドルをにぎったとする。すると車はその人の呼吸からアルコール臭を感知する。またお酒を飲むと脈拍が早くなる。そんな近未来な車が開発されれば圧倒的に飲酒運転による交通事故を減らせるだろう。いや、根絶できるかもしれない。

しかし今の世の中にはそのような車はない。だから一人一人が日々の生活の中で外を歩くときは周りをよく見ながら歩く。そしてお酒を飲んだ後に車を運転しようとしている人がいたら周りにいる私たちが声をかける。声をかけることはとても勇気がいることだがその勇気をふりしぼることで痛ましい事故で失われる命は少しずつ減るはずだと私は思う。そして声をかけたり自分たちがお酒を飲んだ後の行動に気をつけることで自分の未来、家族の未来を守り悲しい思いをしてしまう人がいなくなることを私は強く願う。

## 交通安全について

玉川中学校 1年 會川 咲樹

私は交通安全について考えた時に、一番身近な登下校の事を考えました。中学生になり登校班が無くなり、一人で登校するようになった事、見守り隊の人達がいなくなった事で小学生の時との違いを感じたからです。

小学生の時は登校班があり、低学年の時は班長さんに一生懸命ついて行っていました。歩くのが遅かったのについて行くのが大変だと思っていました。しかし、自分が高学年になり、班長になると、やっぱり低学年の子を置いて行きそうになる事がありました。なので、歩くスピードを考えたり、並び順を考えたりしながら、登校班で登校していました。「車道に寄らないように」や、「渡る時にみんなが渡れるように」などと、気をつけなければいけない事が色々ありました。自分が班長になり班長は大変だと思ったのと、自分が低学年の時は班長さん達がこうやってつれて行ってくれていたのだと感謝しました。それと、旗当番の保護者さんや見守り隊の方々の見守りもありました。朝は、見守り隊の方々が渡らせてくれました。小学生の時は登校班で登校する事や、旗当番、見守り隊の人達がいてくれるのが当たり前だったので、あまり考えなかったのですが、中学生になり、それが無くなってしまったので振り返って考えました。登校班の登校は大変な事や面倒だと思う事もあったけれど、振り返ってみると、上学年の人達につれて行ってもらう事、下学年の子達をつれて行く事で様々な交通ルールを学んでいたのだと思いました。そして旗当番や見守り隊の方々など、周りの大人が、見守り教えてくれていたのだと思いました。

中学生になり、登校班はなくなり、見守り隊の人達もいなくなりました。なので、小学生の時は、見守り隊の人達がいてくれて良かったなと思いました。今まで以上に自分がしっかりとしなくてはいけないのだと思いました。信号機のある所は、もちろん信号機を守って渡りますが、信号の無い所は、自分で判断して渡らなければいけません。車が来ていないかを確認して、渡れるタイミングを自分で判断して渡らなければいけません。こういう時に小学生の時は見守り隊の人達が教えてくれていたなと思い出します。

道路を歩く時は車道に寄らずはじを歩く、道を渡る時は信号や横断歩道のある所を渡ったり、無い所を渡る時は特に注意して渡るなど、どれも当たり前な事ですが気が付いたら学んでいました。毎日の登下校の中で自然と学ばせてもらっていたのだと気が付きました。

そして、登下校中に自転車に追い抜かれたり、すれ違ったりもします。自分が歩いている時に急に自転車が来るとびっくりします。ですが、自分も自転車に乗っている時は、歩いている人に急に近づいているのではないかと思いました。今は歩いている側ですが、自分が歩いている時に感じた自転車に対する思いを、自分が自転車に乗る時に気を付けようと思います。

今回、交通安全について考えた時に道路の歩き方や自転車の乗り方について振り返りました。振り返った時に小学校の登校班で学んだ事、見守り隊の人達に教えてもらっていた事に気付く事が出来ました。

これからは、一人での登下校や、自転車乗りも増えると思うので、今まで学んだ交通ルールにも、もっと注意しながら過ごしたいと思います。

そして時々、自分の中の交通ルールを振り返り、道路を歩く時に気を付けなければいけない事、自転車に乗る時に気を付けなければいけない事、注意する事や場所について考えたいと思います。また、それを教えてくれる人、学ばせてくれる人に感謝しながら安全な登下校、安全な自転車乗りを心がけたいと思います。

## 交通ルールを呼びかける大事さ

植田東中学校 2年 菅原 祥仁

皆さんは普段、道を歩いたり車に乗ったりしている時、ヒヤッとする経験をしたことはありませんか。自分には関係ないだろうと、どこか他人事のように感じている人もたくさんいると思います。正直に言うと、私も実際そうでした。しかし、テレビや新聞では連日のように交通事故のニュースが報じられ、無事故の日がほとんどないのが現実です。なぜ、交通事故は減らないのでしょうか。そこにはどのような原因があるのでしょうか。私は今までに発生した交通事故について、自分なりに調べてみることにしました。

皆さんは覚えていますか。今から約六年前、東京池袋で当時八十七歳の男性が運転する車が暴走し、横断歩道に突っ込むという痛ましい事故が発生しました。この事故では横断歩道を渡っていた人を含め、九人が重軽傷を負い、あろうことか何の罪もない一組の母子の尊い命が奪われました。子供はまだ幼く、三歳だったそうです。事故を起こした犯人は当初自分の運転ミスを認めなかったようで、遺族の気持ちを思うと胸がしめつけられます。

記憶に新しいところでは、今年の六月二十七日の事故があります。岐阜県中津川市の中央道で当時九十九歳の男性が運転する車が逆走し、そのまま対向車と正面衝突。相手の運転手が重症を負いました。驚くことに、この犯人は三・七キロメートルという長い距離を逆走していたそうです。なぜ逆走に気が付かなかったのでしょうか。もし気が付いていたとして、なぜそのまま逆走を続けたのでしょうか。もし止まっていたら、こんな大事故にはならなかったはずですよ。

また今回いろいろと調べていく中で、実は私も幼少期に事故に遭っていたことが判明しました。当時私は一歳になったばかり。母の運転する車の後部座席のチャイルドシートに座っていました。見通しの良い国道を法定速度で走行していたところ、反対車線を走行してきた車が、突然無理矢理右折。ブレーキを一切踏むことなく、母の車に突っ込んできたそうです。母は突然の出来事にブレーキを踏むことも、ハンドルを切ることもできなかったそうです。幸い私はかすり傷一つなく無事でした。しかし、母の車はドアが開かないほどボロボロに折れ曲がり、母は肋骨を折る重症を負ったそうです。相手運転手は九十代男性でしたが、驚くべきことに、謝罪するどころか自分は全く悪くない。お前が気を利かせて止まれば良かったんだと正当性を主張し、ものすごい剣幕で母に文句をつけてきたそうです。私はもちろん当時の記憶はありませんが、強い憤りを感じました。

今回、私が取り上げた三件の事故は高齢者ドライバーに関係するものでしたが、どれも自己中心的な行動や考え、年齢的な要因が一番関係しているのではないだろうかと感じました。この他にも全国では連日のように様々な事故が発生しています。高齢者だけでなく、年齢、性別、時間帯、場所、天候など、事故の要因は様々です。何度も繰り返しますが、事故は決して他人事ではありません。今や二百五十人に一人の確率で事故に遭遇する時代で、もはや明日は我が身なのです。

残念ながら自分が交通ルールをしっかり守っていても、事故に巻き込まれてしまうことがあります。だからといって、自分はルールを守らなくて良いのでしょうか。いや、絶対にいけません。ルールを無視することで、自分や自分の家族、大切な人が加害者や被害者になってしまう危険が十分あるのです。まずは自分がルールをしっかり守り、周りにその重要性を呼びかけることが大事で、それが交通事故ゼロの第一歩に繋がると思います。日本では現在、高齢化が進み、高齢者ドライバーが起す事故が社会問題にもなっています。高齢者の事故を防ぐ為、免許証返納などを勧める動きもあります。しかし、一概に返納を勧められないのが現状です。なぜならば返納することにより地域によっては生活に支障をきたす方々が多く、その場合、周囲のサポートや行政サービスの推進をしていく必要があるからです。今後の重要課題となっています。これが現在の日本の現状なのです。では、中学生の私達がすべきことは何でしょうか。まずは自分達ができることを考え始めることです。小さいことからでもかまいません。どうすれば皆が安全に、快適に、便利に、笑顔で過ごせるか。私達一人一人が交通ルールをしっかり守り、お互いを尊重し、思いやる気持ちを常に意識して行動していきましょう。自分や大切な人達を守るために。

## 私の交通安全

玉川中学校 3年 鈴木 秀一朗

私たちの生活にとって、交通はとても身近で大切なものです。通学や通勤、買い物、習い事など毎日のように道路を使っています。ですが、その道路には思わぬ危険があることも忘れてはいけません。だからこそ交通ルールを守ること、周りに注意しながら生活することがとても大切だと思います。

私はこれまでの生活の中で交通事故の怖さを実感するような経験を何度もしたことがあります。なかでも私がヒヤリとした体験が二つほどあります。

一つは、三年ほど前、友達と遊び、家に帰っていたときです。坂になっている細い道を自転車で下っていました。私がちょうど、曲がり角を曲がろうとしたときに突然、郵便配達バイクが出て来てぶつかりそうになりました。お互いにスピードは出していなかったので事故にはならずすみましたが、もう少しスピードを出していたら相手の仕事に関わっていたかもしれないし、自分もどうなっていたか分かりません。「いつも通っている道だから。」「普段は人通りが少ないから。」という油断が、事故につながるかもしれないということを、あらためて実感しました。

二つ目は、中学二年生のころです。私は夜に塾に行っているのですが、塾の帰りに自転車で大転倒しました。その日は雨が降っていてぬれたマンホールでタイヤがすべってしまいいきおいよく転んでしまいました。そのまま人の家に止めてある車の前まで行ってしまい、接触しそうになりました。その前は細く歩道がない道路でしたが、車は通っておらず、けがも大きめのすり傷程度です。なのですが、雨の日は特に周りに気をつけて、できるだけ歩いて移動するようになりました。このときの私は雨だから早く帰りたいという気持ちが強く、周りが見えていなかったことも原因の一つだと思います。約束事や時間に遅れてしまうなど、急がないとという気持ちになってしまう場面もありますが、急いでいる時ほどあせらず落ち着いて行動することを心がけようと思いました。

私の家の周りは坂が多いわりに、街灯が少なく、夜になると道路がかなり暗くなります。特に冬の夕方などはすぐに暗くなり、とても危険です。私の家の近くでは夜に散歩や走っている人が多いと感じています。多くの人は反射材やライトをつけていたり、蛍光色の物を身につけていたりして、遠くからでも誰かいると分かる服装なのですが、たまにそういう物を何も着けずに夜に歩いている人を見かけます。暗い道ではとても分かりにくく、おたがいに危険な思いもするかもしれません。ですが、これは自分にも言えることです。私は自転車にはライトと反射材を、歩くときはライトを持っているのですが、そういった物が無いと車や自転車に乗っている人達に気付いてもらえない可能性が大きくなるということです。自分からは見えていても相手が気づかずに事故が起こってしまった、ということになりかねません。交通事故は自分には関係ないことではなく、誰にでも起こることで、自分が起こしてしまうだけでなく、自分が原因で自分が被害者になり相手に大変な迷惑をかけてしまうことだってあります。だからこそ日ごろから交通安全を意識し、「行動すること」が大切だと考えました。

私たち中学生にとって、自転車はとても身近な交通手段です。しかし、正しい乗り方をしないと自分だけでなく相手を傷つけてしまう可能性だってあります。信号を守る、交差点などでは一時停止をする、ヘルメットをつける、夜はライトをつける、など基本的なルールを守ることが重要です。また、スマートフォンを使いながらのながら運転や、イヤホンなどをつけて音楽を聴きながら運転などはとても危険です。ほんの一瞬の不注意が大きな事故につながるかもしれないということを私たちはしっかりと心にとめておかなければいけません。

交通安全は、私たち一人ひとりの意識と行動で守られているものです。自分の命を守ることはもちろん、周りの人の命も守るために私たちは思いやりを持って行動しなければいけません。「ちょっとだけなら。」「自分は大丈夫。」といった気のゆるみが大事故を引き起こしてしまうこともあります。

私はこれからも、自分の体験を忘れずに、毎日の生活の中で交通安全を意識していきたいと思っています。

## 安全は小さな心がけから

玉川中学校 3年 駒田 愛実

最近、テレビなどで交通事故に関してのニュースをよく目にします。歩行者や自転車が巻き込まれる事故も多く、私も他人事ではないなと感じています。毎日のように道路を歩き、登下校をしている私にとってとても大切なことだと思います。だからこそ、私は日頃から交通ルールを守り、自分の命を守れるように日々心がけています。

私が特に気をつけていることは、横断歩道を渡るときです。信号の色が青に変わったからといって、百パーセント安全というわけではありません。私には今でも忘れられないことがあります。それは下校の際に、友人と歩いて帰っている時、信号が青に変わったので横断歩道を渡ろうとしたときのことです。そのとき、曲がってきた車がスマートフォンを使用しながら運転をしていて、私たちが渡っていることに気づくのが遅れ、急ブレーキをかけ、目の前で止まったことです。あと一秒でも遅れていたら、大きな事故につながっていたかもしれません。

私はこの出来事をきっかけに、信号が青だったとしても、油断をせずに、必ず左右を確認するように心がけています。それに加え、渡る前に手を上げ存在を知らせたり、車が止まってくれたときには軽く会釈をして感謝の気持ちを伝えるなども意識をしています。これらのことはほんの数秒のことですが、お互いに気持ちよく通行できるための大切なことの一つだと思っています。

自転車に乗るときにも、私はいくつか気をつけていることがあります。まず、必ずヘルメットを着用するようにしています。以前までは（かっこ悪いな。）と思っていたのですが、自転車事故などのニュースを見るたびに、ヘルメットの大切さを感じるようになりました。たった一つの努力で自分の命を守ることができるということがわかったからです。また、自転車に乗りながらイヤホンで音楽を聴いたりすることも絶対しないようにしています。イヤホンをつけてしまうと、周りの音が聞こえにくくなってしまい、事故の原因になってしまいます。もし高校生になり、通学で自転車を使う場合は、常に周囲に気を配りながら運転したいと思います。

夜に自転車に乗ったり外出する際には、ライトを点灯し、自分の存在を周囲に知らせるようにしていきたいです。そして、なるべく明るい服を着るなどの工夫もしていきたいです。外が暗いと、少しの油断が大きな事故につながってしまうこともあるので、自分から「周囲に知らせる工夫」をすることも、とても大切だと思っています。

交通安全を意識することは、自分の命を守るだけではなく、まわりの人たちの命を守ることもつながります。私は交通安全は特別なことではなく、毎日生活の中で出来ることだと思っています。信号を守ること、周囲をよく見ること、自転車に乗るときにはヘルメットをかぶるなど、小さなことの積み重ねが大きな事故を防いでくれると思います。また、家族や友人と交通ルールについて話すこともお互いの意識を高めるきっかけになると思います。私は日頃から、私の行動を見た誰かが、（自分も気をつけよう。）と思ってくれるかもしれない、と考えながら行動するようにしています。他にも、家族との会話の中でも生活しておきた出来事を話したりしています。例えば、「近くの横断歩道付近で走っている車のスピードが速いよね。」などちょっとした出来事を話すこともあります。そんなふうに身近な人と交通のことを話し合うことで、自分が気をつけていることを再確認したり、他の人の考え方から新しい気づきを得ることが出来ると思います。お互いに声をかけ合うことで、より安全意識が高まっていくのではないかと感じています。そして私は、日々の行動を通して、誰かに良い影響を与えることが出来たらいいなと思っています。私一人の行動は小さいかもしれませんが、それが少しでも多くの人に伝わることで、安全な社会づくりにもつながると思います。これからも、交通安全への意識を持ち続けるとともに、それをただ頭の中で考えるだけではなく、日々の生活の中でしっかりと行動に移していくことを大切にしていきたいです。朝の通学や自転車に乗るとき、どんな場面でも「安全第一」を忘れず、一つ一つの行動を丁寧にしていこうと思います。そして、身のまわりの人たちとともに、お互いに声をかけ合いながら、安全に暮らせる毎日を作っていけるように、これからも気を抜かず取り組んでいきたいです。

## 運転手も歩行者も皆が手を取り合うために

植田東中学校 3年 佐藤 彩加

私は日々の生活の中でニュースをもとに世の中で何が起きているかを把握しています。しかし、ニュースの中のたった数分間の情報で把握したと言えるのだろうかと思い、交通事故の事例や実際に起きてしまった事故を調べ、いろんな視点を持ち「しっかり把握できた」と自信を持って言えるようにしていきたいと思います。

まずは現状を理解することが大事だと考えたため、交通事故発生状況を調べました。昨年の二〇二四年中で約三十万件も事故が発生していました。このような結果が世界ではどのぐらいなのか調べてみたところ、上位にランクインすることが分かりました。また、死亡者を伴う交通事故のランキングでは、交通事故の発生件数ランキング上位五位までの三ヶ国がランクインしている中、日本はランクインしていないことが分かりました。このような結果になった要因としては、日本ではスピードをあまり出していない状態での交通事故が多いということが挙げられます。現状や傾向が分かったところで具体例をもとに自分なりに考えていきたいと思います。一つ目は、バスと自転車の事故です。事故の要因は大きく分けて三つあります。一つ目は、自転車は歩道を走ると思い込んでしまった、自転車に乗っていた人からすると、バスが避けてくれると思い込むなどお互いの思い込みで運転してしまうところです。二つ目は定刻より遅れていたため、焦りが出たというバスならではの要因です。三つ目は道路状況です。道路標識や看板灯が少ない場合、運転に迷いがあると判断に遅れが出てしまうのではないかと考えました。バス会社では様々な場合に応じた訓練が必要だと考えました。また自転車の運転手は危険箇所を把握し、もっと自分の運転に責任を持つべきだと考えました。また、運行遅れに対し安全最優先を徹底指導する、運行時間の見直しをするなどがありますが、これらに関しては乗客となりえる全ての国民の理解が必要だと思います。そのためには、乗客が運行遅れに不満を抱く原因として大いに考えられる会社や学校の対応についても改善が必要だと考えました。事件事例二つ目はトラックでの事故です。トレーラーが下り坂で速度オーバーにより側壁に衝突し横転したという事例です。推定原因としては速度の出し過ぎが挙げられます。しかし、意図的に速度を上げたとは限りません。例えば、カーブの認識が遅れたことにより速度を落とすことができなかった、または道路状況や気候によって速度が速くなってしまったなど様々な要因が考えられます。また、二台のトラックで運搬をしていた場合には、先行車との距離が離れたため焦ってしまい、このような結果になってしまったとも考えられます。最悪の事態を想定するとトラックが横転したことによって反対車線の車や歩道などを巻き込む悪循環が起きてしまいます。他にも交差点や左折時、トラックの死角や内輪差によって巻き込み事故が発生しやすいようです。こうして調べてみるとトラック運転手やバスの運転手は注意を払うべき点がとても多いことに気がつきました。バスやトラックの運転手の不足が深刻化している今、私に何ができるか、それはその仕事について理解することが重要だと考えました。現時点で私が知っているのは、人手不足、それによる労働条件の厳しさと、そこから起きる事故が問題視されているということです。知っているところからの疑問として労働条件について改善されているか、人手不足を解消できるような保護があるのかを調べていきたいと思います。労働条件改善には、労働時間の上限規制や休息時間の確保、そして、それらを支えるための制度や環境整備がされているようです。また人手不足解消の具体策には女性をターゲットにした改善なども見られました。

こうして、バスやトラックの運転手を重点として様々なことを調べましたがその中で私が大事だと思ったことは状況をしっかりと把握し、様々な視点で考えることです。ネット社会とも言える今、たった数分の動画で物事を判断し、批判ができてしまう今だからこそ、もしも自分がその立場だったら？その状況になってしまったら？と一つ一つを深く考え、自分自身の言動に責任をもってほしいと思いました。そして交通事故を減らしていくためにはトラックの死角に入らないようにする、思い込みで運転をしない、飛び出さないなどまずは様々な危険性を理解し行動に移す、運転手、歩行者どちらも事故の原因になる可能性があるということを理解するのも重要だと考えました。最後に、この作文を通して「しっかり把握できた」と自信を持って言えるようになったと思います。